

68

Villous tumor様の形態を呈した胃癌の1例

外科第三講座 林幹也 木村幸三郎  
 小柳泰久 青木達哉 鈴木和信  
 葦沢龍人 高木融 柿沼知義 山崎達之  
 中村祐子 鈴木敬二  
 内科第四講座 川口実 半田豊  
 病院病理 廣田映伍

症例は76才男性。空腹時心窩部痛を主訴として近医受診。UGI, GIFにて胃体下部から前庭部において多発性の隆起性病変を認め同部の生検で高分化型腺癌の診断を得た。当科転科し平成4年12月■に胃全摘・リンパ節郭清胆嚢合併切除術, Roux-en Y再建術が施行された。摘出標本にて腫瘍は肉眼的にVillous tumor様の形態を呈し、また組織学的にⅡa+Ⅰ+ (Ⅱb)、smの早期胃癌の1例を経験したので報告する。

69 蕨市立病院における胃癌手術症例の検討

蕨市立病院 外科

白石良信 武田秀之 早瀬仁滋 原義和  
 東京医科大学外科学 第三講座 木村幸三郎

近年における胃癌手術成績の向上は、広範囲なリンパ節郭清や他臓器合併切除などの拡大根治の普及によりもたらされた。一方、早期胃癌に対しては、術後のQOLの観点から、機能温存を考慮した縮小手術の可能性も追求されている。

今回我々は、当院での9年間の胃癌手術症例を臨床病理学的に検討し、当院の手術の現況を報告する。

1984年より1992年までの9年間の胃癌手術症例は89例である。年平均10例で、近年増加傾向にある。性別では男性62例、女性27例と男性に多い。年齢では男性平均64.6才、女性平均65.1才であった。これは全国胃癌登録調査報告の男性平均60.3才、女性平均59.2才よりも高齢で、治療面での重視すべき点の一つである。

内眼型では、早期癌は31.5%と全国調査とほぼ同数であった。手術術式では、胃全摘23例、胃切除64例、バイパス手術2例、単開腹0例であり、他臓器合併切除を15例に施行した。この内、治癒切除は65例であった。当院における切除率は、97.8%と全国調査の90%前後と比較し高率であった。しかし癒切除率は74.4%と、全国調査の78%よりもやや低率である。これは、非治癒切除の原因となる肝転移、腹膜播種、遠隔リンパ節転移のある進行癌に対しても、腫瘍量減少、出血防止、通過障害の改善を目的として積極的に切除を行っているためと思われる。現在我々は、StageⅢまでの症例に対してはR<sub>0</sub>手術を標準術式とした治癒切除を、StageⅣに対しても積極的に切除を行い、QOLの改善と胃癌手術成績の向上をはかっている。